

第15期 事業報告書

2024年6月1日～2025年5月31日

当法人の活動目的は、人と動物が良きパートナーとして、共に幸せに暮らせる社会を作っていくことである。

そのために、以下3つの活動を行い、また当法人の組織基盤の強化も図りながら、日本の動物福祉を世界トップレベルまで引き上げていくことを目指す。

- ① 動物福祉活動に従事する非営利法人に対して寄付支援を中心とする活動支援
- ② 動物福祉に対する考え方や情報を社会に発信していくセミナー等の企画運営
- ③ セミナー、WEB掲載等に活用するための情報リサーチ

1. 寄付支援事業

【目的と意義】

2つの目的を掲げている。1つ目は、日本の動物福祉を世界トップレベルにするために、現場で問題に向き合う非営利活動法人へ寄付による支援活動である。2011年9月にスタートした寄付サイト「アニドネ」は支援をする認定団体は4カテゴリー（保護団体・介在団体・伴侶団体・啓発団体）を対象とし個人・企業から寄付を募り、団体へ届ける中間支援である。2つ目は、正しい寄付文化醸成である。犬や猫も社会的弱者であり寄付で救うべき存在である。しかしながら、昨今透明性や信頼性にかかる営利寄りの寄付が散見される。私共は公益法人として、あるべき姿の寄付活動を提示し寄付文化構築に貢献することも目的としている。

15期終了後の寄付総額は約6億3,900万円。支援先は6団体が追加され45団体。2025年4月に1保護団体が支援を辞退し15期終了時点では44団体である。

マーケティング外部アドバイザリーボード「イヌネコマンスリー」活動は3年目。広い観点からの寄付施策実施や広報活動のアドバイスをもらった。15期に実施したメディアへのニュース配信は確実にサイトへのアクセス数を増やした。

私共のオンライン寄付システムの決済システムを新構築し、リプレースを2025年1月に実施。無事移管（第2フェーズ完了）。動物のために寄付をしたい寄付者のキモチに寄り添い、そしてより決済のしやすい仕組みを作った。今後は、認定団体の管理システムに着手していく予定である。

1) 個人からの寄付支援事業

13期に実施した寄付導線を強化した寄付サイト「アニドネ」のリニューアルの結果、105%のオンライン寄付額増となった。

また、13 期に引き続き 2 度目のクラウドファンディングにチャレンジをした。目的は多頭飼育崩壊支援のための緊急支援基金の資金調達である。目標金額 300 万円に対し、約 691 万円を調達。寄付者は 509 人であった。全国的に頻発している多頭飼育崩壊に対する有意義な支援に繋がった。

アニドネレガシー（遺贈寄付）は、新聞への折り込み広告を実施（約 90 名からの資料請求）。犬猫への支援への意識の高まりを感じた。その他、個人・士業・金融からの問い合わせは増加している。遺されるペットのための遺言をアニドネがサポートし認定団体と寄付者で締結した初めての実績もできた。

「紺綬褒章認定法人」として、15 期は 1 件が認定された。他 3 件で申請希望があり提出をした。

2) 企業団体からの寄付支援事業

世界的な経済不安定の影響を受けてか、企業からの寄付が昨年と比較し 81%に留まった。

新しい取り組みとしては、「保護活動支援プロジェクト」を立ち上げた。企業×アニドネ×保護活動がんばっている認定団体が一緒になって取り組むプロジェクトで第一弾として、サンスターグループのペット用の除菌脱臭機を保護猫カフェに設置。臭気の官能評価をおこない、保護シェルターの環境整備に繋がった。

2. セミナー等の企画運営事業

【目的と意義】

現在の日本の動物福祉に関する問題点をテーマにセミナーを実施。昨今見られる多頭飼育や貧困による保護、保護ビジネスに関して、正しい知識を伝えることに終始した。また、海外の動物法を元に日本のおかれた現状を伝えるセミナーコンテンツは、ペット業界従事者であっても知らないことが多く非常に好評を得ている。

15 期に初出展した「インターペット東京」。展示内容は「幸せになった保護犬猫達 before after パタパタパネル展」。保護した犬猫たちがいかに幸せに変わったかをビジュアルで見せることにより、保護犬猫の認知・保護団体の意義提示・優良飼い主の増加を意図した。また、多くの企業が集う展示会内において私共は異色ではあったが、認知をあげる策としてはよい結果であった。700 名の飼い主がブースへ来場、寄付候補企業とは約 200 枚の名刺交換に繋がった。

日時	場所	対象者	人数	テーマ	講師	主催
2024/06/11 火 16:00- 17:00	オンライン	企業社員 (IT系)	6名	日本の保護活動の問題と解決法について	(公社)アニマル・ドネーション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネーション
2024/08/22 木 11:00- 12:00	オンライン	公式サポーター企業 マジメナ株式会社	5名	日本の保護活動の問題と解決法について	(公社)アニマル・ドネーション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネーション
2024/09/12 木 11:00- 12:00	オンライン	ライオンペット株式会社	25名	日本の動物福祉課題 & 保護動物の口腔 & トイレ事情について	(公社)アニマル・ドネーション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネーション
2024/09/14 土 10:00- 17:00	オンライン & リアル	遺贈検討者	1名	遺贈寄付無料相談	JELF「みどりの遺言」プロジェクト	一般社団法人 全国レガシーギフト協会

2024/10/29 火 10:30- 11:30	オンライ ン	企 業 社 員 (投 資 会 社)	2 名	日本の保護活動の 問題と解決法につ いて	(公社)アニマル・ドネー ション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネー ション
2024/12/1 木 12:00- 13:30	リアル	企 業 社 員 (IT 系)	4 名	海外と日本の動物 事情の違い	(公社)アニマル・ドネー ション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネー ション
2024/12/4 水 17:00- 19:00	リアル	ペット業界 企業	50 名	昨今の保護動物事 情について	(公社)アニマル・ドネー ション 代表理事 西平衣里	小滝橋動物病院グルー プ
2025/2/4 火 14:20- 14:50	リアル	全国の工務 店や不動産 会社	73 名	日本の動物福祉の 最前線	(公社)アニマル・ドネー ション 代表理事 西平衣里	ペットライフスタイル 株式会社
2025/2/22 土 10:00- 11:00	オンライ ン	一 般 の 方 (保護犬猫 に興味のあ る方など)	21 名	「～先進国の動物 福祉と法律から学 ぶ～ 動物と人が 共に幸せに暮らす ために」	(公社)アニマル・ドネー ション望月舞(アニドネ AWGs リーダー)	一般社団法人 日本ドッ グ ト レ ー ナ ー 協 会 (JDTA)
2025/2/28 金 20:00- 21:30	オンライ ン	アニドネボ ランティア 参加希望者	3 名	日本の動物福祉の 問題と解決法につ いて	(公社)アニマル・ドネー ション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネー ション
2025/3/26 水 20:00- 21:30	リアル	ペット業界 企業	60 名	「主に法律から考 察～なんでこんな に違う!?～海外のペ ット事情」	(公社)アニマル・ドネー ション 代表理事 西平衣里	小滝橋動物病院グルー プ
2025/4/3 木-4/6 日 10:00- 17:00	リアル	一 般 の 方 並びに出展 企業	700 名	幸せになった保護 犬 猫 た ち before after「パタパタパネ ル展」	イベント展示	(公社)アニマル・ドネー ション
2025/4/19 土 20:00- 21:30	オンライ ン	アニドネボ ランティア 参加希望者	5 名	日本の動物福祉の 問題と解決法につ いて	(公社)アニマル・ドネー ション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネー ション
2025/5/25 日 20:00- 21:30	リアル	新潟動物ネ ットワーク イベント参 加者	40 名	～動物先進国の暮 らしと法律から学 ぶ～「犬猫と人が共 に幸せに暮らすた めに」	(公社)アニマル・ドネー ション 代表理事 西平衣里	新潟動物ネットワーク

3. リサーチ事業

【目的と意義】

主な活動は AWGs（アニマルウェルフェアゴールズ）である。広報活動の効果もあり、昨対で倍の来訪者となった。日本の動物問題を分かりやすく伝えた提言サイトであるため、学生からの問い合わせが増えた。都内私立高校の探求授業にて生徒の意思で研究された課題となった。

また、「【ゴール 4】 いつもあなたと一緒に」 で進めていた外飼いの規制に対する法改正の要望書と AWGs で集めた署名 5612 件を、「犬猫の殺処分ゼロをめざす動物愛護議員連盟」 事務局長 福島みずほ氏に提出した。

新しい調査物を発表した。「犬猫保護団体活動白書 2025」。保護犬・保護猫支援プログラムを運営しているアマゾンジャパン合同会社の協力のもと、保護犬・保護猫を取り巻く環境の実態確認を行うべく、犬猫保護団体を対象としたアンケート調査を実施。調査には全国各地から 176 団体が参加。調査の目的は、犬猫保護団体の現状と課題を確認し、今後の活動レベルおよび一般認知の向上につなげることで、そして保護犬猫の迎え入れ促進や動物福祉改善へ向けた方向性を、業界・行政など多様な視点で検討することである。

4. 管理事業

【目的と意義】

当法人の目的や活動内容に理解・賛同をして、共に活動にしていだける方の拡大は、当法人の活動展開の上できわめて重要であり、活動の源となる。よって、当法人への会員になることで会費を提供いただく会員制度やボランティアという労力で活動を支える会員制度を設立し、活動規模を拡げる目的である。

1) 公式サポーター

14 期より制度変更をした「公式サポーター」。2024 年の年末よりコングラント（非営利向け決済システム）のサポートを得て、公式サポーター募集キャンペーンを実施。同時にオンライン上のチャリティウォーク企画も実施。目標の 100 名加入には届かずであったが、あらたに 66 名の支援を得た。今期は、個人サポーター（90 名・法人サポーター15 社）と大幅増加となった。

2) スタッフの拡充

運営メンバー8 名、有償スタッフを複数名に増員、そして志を共にするボランティア組織「クラブアニドネ」約 100 名のスタッフで稼働した。クラブアニドネの多様なスキルを持つスタッフの活動の仕方は非営利ならではのサポートである。14 期に続き、リアルでのタウンホールミーティングで当法人の活動について、また今後についてなど議論をした。

内部活性化としてアニドネカフェと称し、オンラインでのコミュニティを定期的に開催。旬な話題やアンケート発表など、各人が高い興味を示すテーマに絞って実施を続けた。

3) 外部アドバイザリーボード

法人運営の拡大や透明性を高めるために、動物学、経営学等の有識者数名を外部アドバイザーに迎えて、「審議委員会」を設けている。年 1 回審議会を開催して、支援先団体の選定に関する審議や、当法人の運営についてアドバイスをもらった。今期の審議会は、外部有識者 4 名、当法人の代表理事 1 名の合計 5 名で構成している。2024 年 10 月に新認定 6 団体・既存更新 25 団体を認定審議。

5. 税額控除に係る証明の更新申請

寄付者の皆様から頂いた寄付が税額控除の対象となるように税額控除に係る証明の更新申請を行い、令和 5 年 5 月 29 日から令和 10 年 5 月 28 日までの期間の証明書を受領し活動継続した。

以上